

学校卒業後における障害者の学習として必要となる内容のイメージ例

資料 1 - 3

平成30年3月20日「第1回学校卒業後における障害者の学びの推進に関する有識者会議」資料

※下記の区分は相対的なものであり、相互に重複することもあり得る。

※特別支援学校等でのキャリア教育の取組も踏まえ、障害者の生涯を通じて、キャリア発達を促進することも重視する。

【視点1】特に学校から社会への移行期に必要な内容

○学習内容・方法に関すること

- ・学校段階で身に付けた資質・能力の維持・開発に関する活動
- ・主体的・協働的に調べ・まとめ・発表する活動
- ・自ら学習や交流を企画するスキルに関する学習
- ・社会体験や生活体験、農業体験
- ・就業体験、職場実習 など

【視点2】生涯の各ライフステージに必要な内容

○個人の生活に必要な知識・スキル

- ・健康の維持・増進
- ・適切な食生活
- ・家庭生活や結婚生活
- ・防災、防犯
- ・ITスキル、情報モラル
- ・家族の介護 など

○社会生活に必要な知識・スキル

- ・金銭管理、契約
- ・資格や免許に関すること
- ・公共施設等の社会資源の利用
- ・税に関すること
- ・社会保障(年金・保険等)
- ・住民サービス
- ・政治参加
- ・裁判や司法参加
- ・労働法規
- ・地域活動、ボランティア活動
- ・集団生活でのルール、マナー
- ・ストレスマネジメント など

○職業において必要な知識・スキル

- ・仕事に関係のある知識の習得や資格の取得
- ・就職や転職に関係のある知識の習得や資格の取得 など

【視点1】【視点2】に共通して、生涯を通じて必要な内容

○自立して生きる基盤となる力に関すること

- ・人と関わる力(例:コミュニケーション能力等)に関わる活動
- ・主体性をもって物事に取り組む意欲、やり遂げる力に関わる活動 など

○人生を豊かにする上で必要なスポーツ、文化、教養に関すること

- ・スポーツ活動(「する」「みる」「ささえる」を含む)
- ・文化芸術活動(例:鑑賞、自己表現等)
- ・文学や歴史、自然科学などに関する学習活動
- ・時事問題や社会問題等に関する学習活動 など

※学習内容の評価や学習効果の把握、学習の成果を発表・発揮する場の設定